

兵庫県宍粟郡奥谷村春の植物相

建部 惠潤、内海 功一

本年5月2、3日の連休を利用して私共は宍粟郡奥谷村へ採集した。奥谷村には採集地として知られた音水、赤西両国有林があるが、2日の採集地としてはさらに北方の引原部落西方の谷をえらんだ。3日も新しい場所を予定していたが雨のため音水国有林の本谷を雨中約2時間しか歩けなかつた。現今採集家の訪れるのは中音水の溪谷で、音水本谷の溪谷は従来余り採集されていない場所である。しかしかつ葉樹林の手前までの植林地しか歩けなかつたのは残念であつた。引原西方の谷は初めて採集の行われた場所で、スギの植林地が多いが好採集地で種類はかなり多い。しかし数年後揖保川総合開発事業による引原ダムが完工すると採集は困難になる。

地勢と交通の関係で私共は夏期休暇を利用する以外郡北部の採集は困難である。そのため木本類の種類は相当明らかになつているが、花を見ないと見逃しやすく識別の困難な草本類にはまだまだ調査の余地が残されている。今回の採集はこのブランクをうづめるのに役立つところが多かつた。

奥谷村は中国山脈の東部に属する山地の一部であるが、姫路付近はいうに及ばず宍粟郡南部とでもかなり気温、積雪の差がある。従つて植物の種類は勿論出芽、開花の時期にも相当のずれのあつることが考えられるが、事実郡南では新緑となつているのに引原の谷や音水へ入ると春の植物相である。郡南と較べると出芽や開花が約2週間おくれていることが認められた。本稿は採集確認した植物の種類に併せてこの状況も記録した。

次に今回得た知見について略記する。

1) ヤマトグサは昭和14年4月建部は宍粟郡薦沢村岩上国有林で採り^①27年5月私共2人は千種村寺谷山で採集。今回若干ではあるが引原で採集した。従来兵庫県に未記録であつた。

2) ダイセンミツバツツジは但馬には知られているが表側には新しく知られるものである。尙建部は昭和15年8月宍粟郡繁盛村で採集している。ヤマトグサと共に宍粟郡北部山地に広く分布するものと考えられる。

3) 引原部落周辺に点々とサクラの満開が見られたが、引原小学校庭のケヤマザクラが満開であつたことから、いずれもケヤマザクラと考えられる。

4) ザゼンソウは夏の採集に見のがされていたもの

と思われ、引原でも音水でも溪流にそつて多く見られた。今回播磨に産することが確実になつた。

5) ヤマザトタンポポは引原の谷を少し入ると荒廃した畑地があり、そこにカンサイタンポポと混つて生えていた。播磨に新しく知られた。

6) スミレ属の種類が多く採集されたがヒゴスミレ、ヒメミヤスミレ、アカネスミレ、オカスミレ、マルバスマミレは兵庫県又は播磨に新記録である。約30年生のスギ植林地には特にヒゴスミレ、スミレサイシン、ナガバナタチツボスマミレの生育がよく、ヒゴスミレ、スミレサイシンの見事な群落が見られた。

7) 引原ではシダ類が豊富で採集には時期が早かつたが特にミヤマベニシダが目目されたほかウラボシが1株ではあるが見つかつた。私共が宍粟郡で採つた最北地点で、生育の状態はすでに不適地を思わせるものがあつた。

8) ミヤマハコベ、シヤク、ジヤニンジン、フタリシズカ、ニリンソウ、ヒメケイラン、アサツキは今回播磨に於ける産地が確認されたか、新しく記録されるもので、普通品の確実な採集記録がフロラ調査には必要であることが痛感される。

註①、野外博物第2巻26頁(1940)に報告した。

宍粟郡奥谷村採集植物目録

(A) 草本類

(a) 開花中のもの

カンサイタンポポ、ヤマザトタンポポ、タニキキヨウ(H)、ツルカノコソウ(H、O)、クルマムグラ(H)、カキドウシ、ラシヨウモンカズラ、ヤマルリソウ(H、O)、ミズタビラコ、フデリンドウ(H)、シヤク(H、O)、ジヤニンジン、アカネスミレ、オカスミレ、アオイスミレ、シロバナタチツボスマミレ、スミレサイシン、マルバスマミレ、ヒゴスミレ、ヒメミヤスマミレ、ナガバナタチツボスマミレ(H)、ヤマアイ(O)、ミツバツツジグリ(H)、シロバナネコノメソウ(O)、ヤマネコノメソウ、タチネコノメソウ、ヨゴレネコノメソウ(H)、ボタンネコノメソウ、ヒメレンゲ、コンロンソウ(H、O)、ヒロハノコンロンソウ=タデノウミコンロンソウ、タネツケバナ、オオバタネツケバナ、ユリワサビ、ムラサキケマン、ミヤマケマン(H)、イカリソウ(H、O)、ルイヨウシヨウマ、ヤマシヤクヤク(H)、ニリンソウ(Hでは開

花せづ, O)、イチリンソウ (H, O)、サワハコ
ベ、ミヤマハコベ、ノミノフスマ、ヤマトグサ、フタ
リシズカ、ヒトリシズカ、ジュンラン (H)、ヒメケ
イラン (O)、テンナンショウ (H, O)、オクノカ
ンスゲ、カワラスゲ、ミヤマジュズスゲ (H)、ミヤ
マカンスゲ、カンスゲ、キンキカサスゲ、コカンスゲ
(O)、ナルコスゲ、ニシノホノモンジスゲ、ミゾイチ
ゴツナギ (H, O)

(b) つぼみのもの

アサツキ、ヤマトグサ、ハンショウズル (H)

(c) その他の草本類

タイミンガサ (H)、フキ、ノブキ (H, O)、ウ
ド (H)、イタドリ (H, O)、ザゼンソウ (果, H,
O)、オオバコ (H, O)

(B) 木 本 類

ニワトコ (H, 果)、ゴマキ (O)、ヤマツツジ
(H, 花, 附近の山からダイセンミツバツツジと共に
採つて来ているのを見た。)、ダイセンミツバツツ
ジ (H, 花, これは採集した。)、コハナイカダ (O,
花)、キブシ (H, O, 花)、ミヤマハハソ (O)、
トチノキ (H, O, 芽が約4~5cmのびたところ。)
チドリノキ (H, O, 花)、ウリハダカエデ (H,
花)、ミツデカエデ、イタヤカエデ (O)、ミツバウ

ツギ (H, 開花直前, O, 花)、ツリバナ (H, 花)、
ムラサキマユミ (H)、サワダツ (O)、フサザクラ
(H, O, 花)、ケヤマザクラ (H, 花)

(C) 羊 齒 類

サカゲイノデ (H, O)、ツヤナシイノデ、サイゴ
クイノデ (H)、オシヤグジデンダ (H, O)、オシ
ダ (H)、ジュウモンジシダ、シシガシラ、ヤマヤブ
ソテツ (H, O)、ヒロハヤブソテツ、イワイタチシ
ダ (O)、ヤマイタチシダ、ミヤマベニシダ (H,
O)、コタニワタリ、カラクサシダ (O)、ビロウド
シダ、ヒメサジラン (H, O)、ノキシノブ、ミヤマ
ノキシノブ (H, O)、イヌシダ (H)、ウスヒメワ
ラビ (O)、キジノオシダ、ゼンマイ (H, O)、ウ
ラジロ (H)、コウヤコケシノブ、ハイホラゴケ、カ
タヒバ (O)

記号: H; 引原, O; 音水, 花; 開花, 実: 結実

採集植物で疑問のあるものは田川基二博士 (羊齒
類)、村田源先生 (顕花植物)、小山鉄夫先生 (スゲ
属)、三木順一先生 (スミレ属) の御考定を賜った。
記して厚く感謝の意を表す。尙宿泊のお世話になつ
た引原小学校寺元先生に厚く御礼申上げる。(July,
3, 1954)